

島根県公共事業再評価 評価結果（案）

作成日 平成25年 5月

番号	事業概要・事業主体等	事業の進捗状況	事業採択時の状況及び社会情勢の変化等	事業効果	環境への配慮 事業を中止した場合の影響	今後の県の方針案
	(事業概要) (事業主体の根拠)	(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) (進捗状況と今後の見込み)	(事業導入の経緯・目的) (事業を取り巻く社会情勢) (事業に対する地元情勢・計画の強度)	(費用対効果) (コスト縮減・代替案等) (その他の効果)	(生活環境・自然環境への影響) (事業を中止した場合の影響)	(継続・中止)
5	<p>(事業名・地区) 朝酌川 広域河川改修事業</p> <p>(事業位置) 松江市西川津町外</p> <p>(事業費) 27,917,000 千円</p> <p>(事業概要) 全体延長 L=10,960m 朝酌川 L=3,660m 北田川 L=2,350m 京橋川 L=2,550m 四十間堀川 L=1,550m 城山西堀川 L=850m 築堤、掘削、護岸、水門、樋門、橋梁</p> <p>(事業主体の根拠) 河川法第9条2項</p> <p>(再評価区分) ④再評価実施後5年を経過している継続中の事業</p> <p>(担当部課名) 土木部河川課</p>	<p>(事業採択・着手・完了予定年度、経過年数) 事業採択年度：昭和44年度 用地着手年度：昭和44年度 工事着手年度：昭和44年度 完了予定年度：平成40年度 経過年数：45年</p> <p>(進捗状況と今後の見込み) 進捗率：34% 用地：29% 工事：32% 平成40年度完成予定</p> <p>S39：床上56戸、床下277戸、 浸水面積398ha S47：床上4,789戸、床下4,762戸、 浸水面積481ha S56：床上69戸、床下850戸、 浸水面積287ha H18：床上31戸、床下346戸、 浸水面積89ha（橋北地区全体）</p>	<p>(事業導入経緯・目的) 事業着手前の河川流下能力は、著しく低く、度々浸水被害が発生していた。S39の梅雨前線豪雨による洪水で大きな被害が発生し、抜本的な治水対策を行うために事業に着手することとなった。</p> <p>(事業を取り巻く社会情勢) 当河川は、松江市内の中心地である橋北地区を縦断し、大橋川へ流下する河川である。橋北地区は人口・資産が集中する地域であり、県庁、市役所等の地域の中核・拠点機能を有している。また、松江城をはじめとした文化財や史跡等も多く存在し、古くから出雲地域の経済・産業の中心地となっている。今後も流域内の土地利用の高度化に伴い人口・資産の増加が見込まれている。</p> <p>(事業に対する地元情勢・計画の強度) 河川網を形成している松江市の橋北地区は、古くから出雲地域の経済・産業の中心であることから、洪水による浸水被害の防止は極めて重要かつ緊急の課題であり、地元住民は河川改修の早期完成を熱望している。</p>	<p>(費用対効果) b/c = 7.81</p> <p>(コスト縮減・代替案等) 事業実施にあたっては、堤防への残土の有効利用等のコスト縮減に努める。</p> <p>(その他の効果) 高度な土地利用が図られている区域であるので、治水安全度の向上により、将来的に安全な生活基盤が確保でき、民生の安定が図られる。</p>	<p>(生活環境・自然環境への影響) 当河川においては、段階な施工を行うことにより、環境負荷の少ない手順で実施するとともに、在来種の植生が容易である土堤護岸を基本とした改修とし、環境の改変を最小限に抑える。また、松江堀川は、堀川遊覧船等の観光に配慮し、既存の護岸（石積）等を利用した計画とする。</p> <p>(事業を中止した場合の影響) 改修区間内の流下能力は計画の1～3割程度であり、浸水被害が頻発する可能性が高い。</p> <p>・浸水被害履歴 S34、39、47、49、56、61、 H1、3、4、5、7、10、18、22</p>	<p>(方針案) 継続</p> <p>(継続・中止の理由) 現河川の流下能力は著しく低く、治水対策は必要である。 平成18年の出水を機に京橋川水門を建設（H22年度完成）したが、未だ治水安全度は低い状況である。 また、国が整備する大橋川改修工事について、H23年度より本格着手したことを受け、国等の関係機関と調整を図りながら引き続き河川改修を進めていく必要がある。</p>

# 総合的な水の安全安心基盤整備

## 朝酌川広域河川改修事業

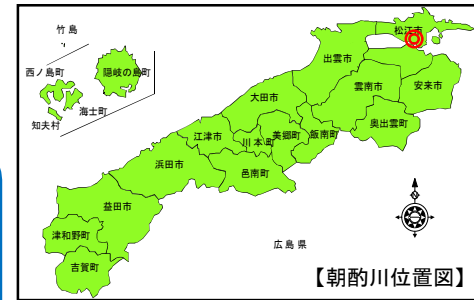
### 河川の概要

朝酌川は松江市の橋北中心市街地を流下し、大橋川に注ぐ河川整備延長約11kmの一級河川です。沿川にある松江市橋北地区では、S39年をはじめ、S47年、H18年の梅雨前線豪雨等による洪水で大きな被害が発生しました。

朝酌川沿川は古くから出雲地域の経済・産業の中心であり、市街地の浸水被害の防止は極めて、重要な課題となっています。朝酌川の河川改修を行うことで、地域の安全・安心に大きな役割を果たします。

### 事業の概要

1. 昭和47年7月洪水と同規模の洪水に対して松江市街地(橋北)の浸水被害の解消を図ります。
2. 河川の拡幅、河床の掘削、橋梁等の改築により流下能力の向上を図ります。
3. 大橋川及び朝酌川本川の洪水流の逆流を防止するため、水門、樋門及び内水排除用のポンプを整備します。

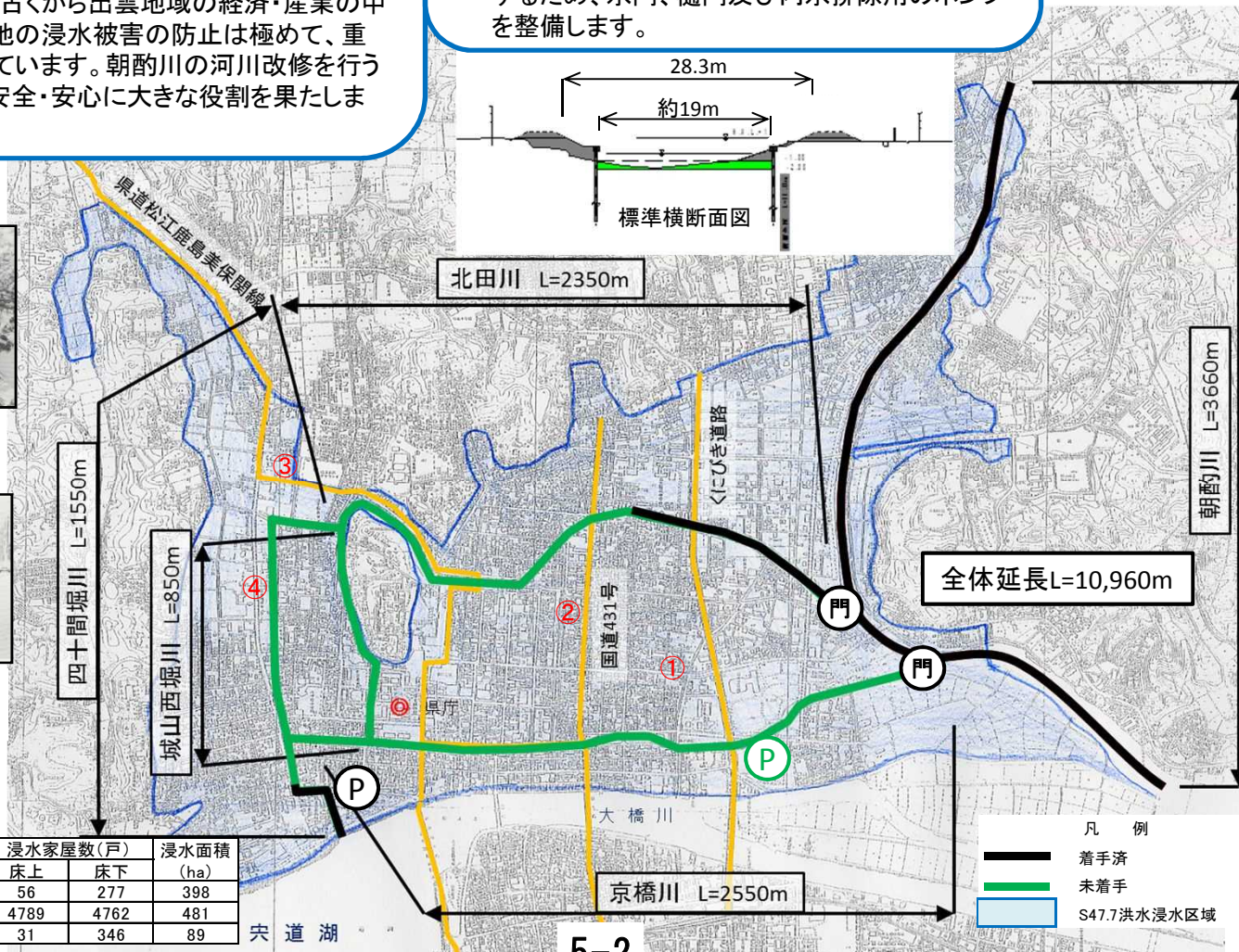
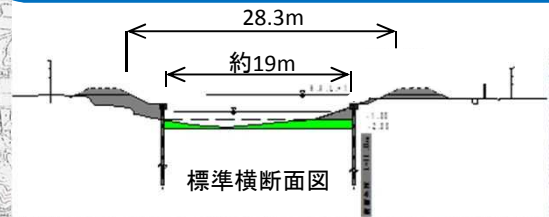


S47災 松江市街地



S47災 松江市内(国道431号)

発生年月	名称	浸水家屋数(戸)		浸水面積(ha)
		床上	床下	
S39.7	豪雨	56	277	398
S47.7	豪雨・台風6.7.9号	4789	4762	481
H18.7	梅雨前線豪雨	31	346	89



H18災 松江市街地



H18災 四十間堀川沿川



H18災 京橋川沿川



H18.7.20読売新聞(朝刊)